

## 軍用犬、相模総合補給廠で爆発物探知訓練 *K-9s sniff out explosives on Sagami*

September 10, 2020

By Airman 1st Class Bricana E. Bolfig  
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真1)9月2日、神奈川県相模原市の相模総合補給廠で行われた、航空機順応および探知訓練で、模擬簡易爆発物の発見に成功した軍用犬ローズウェルに玩具を与える第374憲兵中隊軍用犬ハンドラーのアシュレイ・グリーン軍曹。軍用犬ハンドラーは、軍用犬が任務に成功した時に褒める訓練道具として、犬用の玩具を用いる。

同訓練では、軍用犬とハンドラーが、これまで足を踏み入れたことのない場所に隠された爆発物を効率的に搜索する能力が評価された。基地と住民の安全を守るため、軍用犬とハンドラーは日々連携して任務を行っている。



1

(写真2)軍用犬ブンコを誘導し、模擬簡易爆発物の搜索を行う第374憲兵中隊軍用犬ハンドラーのコーディー・ニッケル軍曹。

今回の訓練のシナリオは、ハンドラーと軍用犬が実践で必要な探知技術を磨くため、安全な環境で行われた。



2

(写真3)横田基地に着陸する第459空輸中隊のUH-1Nイロコイの窓から、外を眺める第374憲兵中隊軍用犬フロリダ。ヘリコプターでの軍用犬の搬送は、犬にとって騒音や振動がストレスとなりうるが、慣れれば必要な場所へ素早く効率的に搬送することが可能である。

この訓練は、軍用犬が航空機を怖がることなく、移動後も普段通りの能力を発揮できるようにする目的で行われる。



3